

平成30年 3 月22日

掛川市長 松井三郎 様

掛川市議会

議長 鈴木正治

## 政 策 提 言

掛川市議会は、市民の負託に応えるべく、市民参加の機会拡充と市民意見を市政に反映させるため、昨年 11 月に「迫り来る豪雨災害に備えて」を一つのテーマとして議会報告会を開催し、市民から多様な意見をいただきました。この意見を基に、安全で安心な社会、誰もが住みたくなるまちづくりの実現のために、全議員で政策討論を重ね、この度「日本一防災意識の高いまち掛川を目指すための提言」として、取りまとめました。

市長におかれましては、内容を十分ご理解いただき、行政に反映されますことを切に要望します。

## 日本一防災意識の高いまち掛川を目指すための提言

はじめに

昨今の自然災害は、季節や場所を選ばず発生するため、市民の不安材料の一つとなっている。豪雨による土砂災害や河川の氾濫、さらに南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、万全な安全対策を講じることは急務である。

まずは、市民の意識改革に取り組み、自助努力を促すことが大事である。市民の防災意識を向上させることで家庭での対策が推進され、それが、地区まちづくり協議会での大きな取り組みへとつながり、全市的に波及していくと考える。

議会では、議会報告会での市民の意見やこれまでの豪雨災害の経験を踏まえ、日本一防災意識の高いまちを目指し、掛川に住む市民が安心して暮らせるように、次の4点について提言する。

## 1 市民の防災意識の向上について

- (1) 家庭の避難計画に基づいた行動が取れるよう、啓発を強化するとともに、避難訓練を実施すること。
- (2) 掛川市が主催するイベントでは、避難口、避難場所や避難行動などを参加者に周知し、発災時に的確で迅速な初期行動が取れるよう努めること。

## 2 災害情報の収集について

- (1) 地元住民が危険と判断する場所に、河川の水位センサー（カメラ付き）の増設を検討すること。
- (2) 掛川市のホームページに、気象庁の情報などをリンクするよう検討すること。
- (3) 災害時の情報収集が容易に、かつ正確に出来るよう、タブレット端末やドローン等、ICT機器の導入を検討すること。

## 3 災害情報の発信について

- (1) 降雨時、同報無線屋外子局（パンザマスト）では聞こえない可能性があるため、早急に防災ラジオの全戸配備を完了させること。
- (2) パンザマストの使用規定を定め、いつでも利用出来るよう、地区ごとの指導、訓練を行うこと。
- (3) 市民と広く災害情報を共有できるSNS等を活用して、より早い情報発信を検討すること。

#### 4 地域との事前対策について

- (1) 地区まちづくり協議会等で地域ごとの危険箇所を把握し、住民が共有する避難計画を策定するよう支援すること。
- (2) 地域住民と危険箇所を調査し、官民協働によって解決策を検討すること。また、危険箇所から発生する河川の浚渫土や法土を海岸防災林強化事業に活用すること。